

第3回蒲郡市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和2年9月30日（火）10時から正午まで																																																																																																														
開催場所	蒲郡市役所3階 303会議室																																																																																																														
出席者	<p>【蒲郡市総合計画審議会 委員】</p> <table border="0"> <tr> <td>蒲郡市教育委員会</td> <td>教育委員</td> <td>渡辺 充江</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市農業委員会</td> <td>会長</td> <td>坂部 哲雄</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市総代連合会</td> <td>副会長</td> <td>石川 良一</td> </tr> <tr> <td>蒲郡商工会議所</td> <td>会頭</td> <td>小池 高弘</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市観光協会</td> <td>常務理事</td> <td>長谷川 恵一</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市漁業振興協議会</td> <td>会長</td> <td>小林 俊雄</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市農業協同組合</td> <td>理事</td> <td>大村 純代</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市小中学校PTA連絡協議会</td> <td>会長</td> <td>三浦 吉尊</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市保育園父母の会連絡協議会</td> <td></td> <td>伊藤 恵梨子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市社会福祉協議会</td> <td>会長</td> <td>鶴飼 秀好</td> </tr> <tr> <td>がまごおり市民まちづくりセンター</td> <td>代表</td> <td>金子 哲三</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市国際交流協会多文化共生部会</td> <td></td> <td>三浦 嘉子</td> </tr> <tr> <td>ボランティア連絡協議会</td> <td>副会長</td> <td>石川 たづ子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市文化協会</td> <td>副会長</td> <td>佐野 哲子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市スポーツ協会</td> <td>副会長</td> <td>吉見 千津子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市子ども会連絡協議会</td> <td>顧問</td> <td>小林 浩子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市</td> <td>副市長</td> <td>井澤 勝明</td> </tr> <tr> <td>名古屋大学</td> <td>教授</td> <td>高野 雅夫</td> </tr> <tr> <td>愛知工科大学</td> <td>准教授</td> <td>小林 直美</td> </tr> <tr> <td>(欠席)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>愛知大学</td> <td>教授</td> <td>鄭 智允</td> </tr> </table> <p>【説明者】</p> <table border="0"> <tr> <td>総務部交通防犯課</td> <td>次長兼課長</td> <td>池田 高啓</td> </tr> <tr> <td>総務部防災課</td> <td>課長</td> <td>鳥居 昭裕</td> </tr> <tr> <td>建設部建築住宅課</td> <td>課長</td> <td>孕石 勝也</td> </tr> <tr> <td>市民福祉部健康推進課</td> <td>健康推進監兼課長</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>石黒 美佳子</td> </tr> <tr> <td>市民福祉部子育て支援課</td> <td>課長補佐</td> <td>伊藤 孝慶</td> </tr> <tr> <td>市民福祉部長寿課</td> <td>課長</td> <td>柴田 好範</td> </tr> <tr> <td>市民福祉部福祉課</td> <td>課長</td> <td>永田 隆裕</td> </tr> <tr> <td>市民福祉部保険年金課</td> <td>課長</td> <td>小島 弘明</td> </tr> <tr> <td>産業環境部農林水産課</td> <td>課長</td> <td>山田 浩隆</td> </tr> <tr> <td>産業環境部観光商工課</td> <td>課長</td> <td>小田 芳弘</td> </tr> <tr> <td>都市開発部企業立地推進課</td> <td>課長</td> <td>成瀬 貴章</td> </tr> <tr> <td>ポータルレース事業部経営企画課</td> <td>課長</td> <td>安井 英人</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table border="0"> <tr> <td>企画部</td> <td>部長</td> <td>飯島 伸幸</td> </tr> <tr> <td>企画部企画政策課</td> <td>次長兼課長</td> <td>牧原 英治</td> </tr> </table>			蒲郡市教育委員会	教育委員	渡辺 充江	蒲郡市農業委員会	会長	坂部 哲雄	蒲郡市総代連合会	副会長	石川 良一	蒲郡商工会議所	会頭	小池 高弘	蒲郡市観光協会	常務理事	長谷川 恵一	蒲郡市漁業振興協議会	会長	小林 俊雄	蒲郡市農業協同組合	理事	大村 純代	蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	会長	三浦 吉尊	蒲郡市保育園父母の会連絡協議会		伊藤 恵梨子	蒲郡市社会福祉協議会	会長	鶴飼 秀好	がまごおり市民まちづくりセンター	代表	金子 哲三	蒲郡市国際交流協会多文化共生部会		三浦 嘉子	ボランティア連絡協議会	副会長	石川 たづ子	蒲郡市文化協会	副会長	佐野 哲子	蒲郡市スポーツ協会	副会長	吉見 千津子	蒲郡市子ども会連絡協議会	顧問	小林 浩子	蒲郡市	副市長	井澤 勝明	名古屋大学	教授	高野 雅夫	愛知工科大学	准教授	小林 直美	(欠席)			愛知大学	教授	鄭 智允	総務部交通防犯課	次長兼課長	池田 高啓	総務部防災課	課長	鳥居 昭裕	建設部建築住宅課	課長	孕石 勝也	市民福祉部健康推進課	健康推進監兼課長				石黒 美佳子	市民福祉部子育て支援課	課長補佐	伊藤 孝慶	市民福祉部長寿課	課長	柴田 好範	市民福祉部福祉課	課長	永田 隆裕	市民福祉部保険年金課	課長	小島 弘明	産業環境部農林水産課	課長	山田 浩隆	産業環境部観光商工課	課長	小田 芳弘	都市開発部企業立地推進課	課長	成瀬 貴章	ポータルレース事業部経営企画課	課長	安井 英人	企画部	部長	飯島 伸幸	企画部企画政策課	次長兼課長	牧原 英治
蒲郡市教育委員会	教育委員	渡辺 充江																																																																																																													
蒲郡市農業委員会	会長	坂部 哲雄																																																																																																													
蒲郡市総代連合会	副会長	石川 良一																																																																																																													
蒲郡商工会議所	会頭	小池 高弘																																																																																																													
蒲郡市観光協会	常務理事	長谷川 恵一																																																																																																													
蒲郡市漁業振興協議会	会長	小林 俊雄																																																																																																													
蒲郡市農業協同組合	理事	大村 純代																																																																																																													
蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	会長	三浦 吉尊																																																																																																													
蒲郡市保育園父母の会連絡協議会		伊藤 恵梨子																																																																																																													
蒲郡市社会福祉協議会	会長	鶴飼 秀好																																																																																																													
がまごおり市民まちづくりセンター	代表	金子 哲三																																																																																																													
蒲郡市国際交流協会多文化共生部会		三浦 嘉子																																																																																																													
ボランティア連絡協議会	副会長	石川 たづ子																																																																																																													
蒲郡市文化協会	副会長	佐野 哲子																																																																																																													
蒲郡市スポーツ協会	副会長	吉見 千津子																																																																																																													
蒲郡市子ども会連絡協議会	顧問	小林 浩子																																																																																																													
蒲郡市	副市長	井澤 勝明																																																																																																													
名古屋大学	教授	高野 雅夫																																																																																																													
愛知工科大学	准教授	小林 直美																																																																																																													
(欠席)																																																																																																															
愛知大学	教授	鄭 智允																																																																																																													
総務部交通防犯課	次長兼課長	池田 高啓																																																																																																													
総務部防災課	課長	鳥居 昭裕																																																																																																													
建設部建築住宅課	課長	孕石 勝也																																																																																																													
市民福祉部健康推進課	健康推進監兼課長																																																																																																														
		石黒 美佳子																																																																																																													
市民福祉部子育て支援課	課長補佐	伊藤 孝慶																																																																																																													
市民福祉部長寿課	課長	柴田 好範																																																																																																													
市民福祉部福祉課	課長	永田 隆裕																																																																																																													
市民福祉部保険年金課	課長	小島 弘明																																																																																																													
産業環境部農林水産課	課長	山田 浩隆																																																																																																													
産業環境部観光商工課	課長	小田 芳弘																																																																																																													
都市開発部企業立地推進課	課長	成瀬 貴章																																																																																																													
ポータルレース事業部経営企画課	課長	安井 英人																																																																																																													
企画部	部長	飯島 伸幸																																																																																																													
企画部企画政策課	次長兼課長	牧原 英治																																																																																																													

	企画部企画政策課 企画部企画政策課 企画部企画政策課	係長 主事 主事	板倉 一博 杉浦 太律 青木 佑紀
議 題	(1) 前回意見への対応について (2) 基本計画骨子案について (3) その他		
会議資料	資料1	第2回審議会意見一覧と対応方向	
	資料2	市議会議員意見まとめ	
	資料3	基本構想修正案	
	資料4	基本計画についての方向性	
発言者	内容		
	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ (会長) おはようございます。 コロナの関係で大きな暮らしへの影響が皆さんの周りで起こっていると思いますが、第二波の収束があり、GoTo キャンペーンも行われ、蒲郡でも観光客が回復していると思います。 大きな変化で感染前に戻る部分と元には戻らない部分があり、後者をマイナスととらえるのではなくプラスに転換していることが求められている。 今回の総合計画もウィズコロナでどうつくっていくのかがポイントと思うので、それぞれの専門分野でご意見をいただければと思う。 今日もよろしくお願い申し上げます。</p>		
	<p>3 議事 (事務局) 資料1、資料3の説明 (会長) 資料3に沿って確認いただきながら補足のご意見をいただきたい。 P.14、15のまちづくりの課題の赤で修正された点についてご意見を伺いたい。 ・No.1の意見を出したが、地域をある程度特定した具体的な表現を期待したが、難しい問題があるので修正案で良い。 (会長) P.23の都市構造で具体的に触れられると思うが、いつ示されるのか。 (事務局) プロジェクトで検討を進めているので、早い段階に出していきたい。 (会長) P.14、15ほかになれば、防災、空き家のことで意見交換を進める。 まず、防災について東南海・南海地震が発生した時に地震と津波に襲われるのでどう備えるのか、地震が起きた時にどう避難するのかなど、市としてどこまで行い市民にどの程度浸透しているのかについて課題があればお話しいただきたい。</p>		

	<p>(防災課) ※取組みを説明</p> <p>(会長)</p> <p>津波のハザードマップは今作成中ということであるが、津波が来たときに、避難すべき高い所は確保できる見通しか。</p> <p>(防災課)</p> <p>蒲郡市の場合、津波が到達する時間というものが、豊橋田原に比べて長く、蒲郡市は 55 分後となっている。55 分後に、最大 5 メートルの津波が来る想定であるが、沿道すべてに 5 メートルの津波が来るわけではなく西浦半島の一部に来るとされている。JR から山手側に移動してもらえれば、ほぼ津波の被害は避けられると考えているため、山手側に移動してもらおうということで対応できると考えている。</p> <p>(会長)</p> <p>住民の皆さんに伝わるのが大事かと思うが、地区防災計画というのは、どういう単位で作成されるのか。</p> <p>(防災課)</p> <p>特に決まっておらず、地域に応じて作ってもらえればよい。昨年度、拾石町が作っており、モデルケースとして各地域に広げていきたい。</p> <p>(会長)</p> <p>いくつぐらい作ると、全市がカバーできるのか。</p> <p>(防災課)</p> <p>大きな単位で言えば中学校区、総代区ぐらいで作ってもらえるとありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に行政は、県、自衛隊と連携して取り組むことは強化されていると感じる。今後の災害で地域が主体的に動くためには、公助が共助をどうバックアップしていくのが重要になってくる。地区防災計画策定の時に拾石町で作る時に地域の人から言われた言葉の中で驚いたのは、民間が行政と災害時にいろんなものについて協力することを新聞で知ったということである。例えば、自動車会社がジャッキを貸しますと、自動車組合と蒲郡市は締結している。ところが、地域の総代さんや、地区防災計画を作る際には全く情報はない。皆さんで助け合いながら、地域が主体になって、どうやって動いていくのか、地域の皆さんたちが計画を作っていく段階で繋がり資源があることを理解するのは、計画づくりに非常に役に立つ。公助と書いてあるのは、共助のバックアップの展開する方向を加速させていただきたい。 ・今後の防災計画を使って作っていただく時に、市民がどういう状態かをよく考えて作っていただきたい。地震があってもパニック状態になる中で、こういった、計画が本当に機能するのか。避難の支援が必要な高齢者はどのような支援がいるのかなどいろいろな問題がある。 ・津波が 55 分後に来ることは、伊良湖の先にどれぐらいの、津波が来ているかというのが正確にわかれば、その間にどうやって減災することができるのかを考えて計画していただけるとありがたい。 <p>(会長)</p> <p>この場では避難支援が必要な方がいる中で、どうやって避難させるのか見当がつかないのは確か。</p> <p>(防災課)</p>
--	---

	<p>必ず、こういうふうによればいいとは計画には書いてないため、各地域、各住民、その対象者の方と対話を通じて、どういう手助けがいるのかを把握しておく必要がある。平時からそういうことが必要になってくると思う。</p> <p>(会長)</p> <p>防災の件について大丈夫か。</p> <p>空き家の件について、市内に増えてきていると、何とかする必要という問題意識も示されており、市としても特別措置法に基づいた対応や空き家の活用の対応があると思うので状況をご説明いただきたい。</p>
	<p>(交通防犯課) ※取組みを説明 (建築住宅課)</p> <p>(会長)</p> <p>平成 28 年の調査時から、かなり空き家の数が減っている理由は。</p> <p>(交通防犯課)</p> <p>苦情が来た場合には所有者を調べて、文書でその所有者の方に連絡しているが、より具体的にわかりやすく言葉も書きながら、写真もつけて、どういった対応をするかということも求めて文書を出している。そういった積み重ねにより、減少していると感じている。</p> <p>(会長)</p> <p>危険な空き家は解体されているという理解でよいか。</p> <p>(交通防犯課)</p> <p>危険な空き家だけではなく、通常の空き家も、件数的には減っており、危険な空き家も確実に減っているので、対策の効果は出ている。</p> <p>昨年度から新たな施策として、解体の補助を実施している。解体の補助は昨年度 8 月から 7 件申し込みのうち 3 件が対象ということで除却、今年度は、12 件の申し込みについて 7 件の対象ということで除却した。解体補助の対象は、この危険な空き家の部類で、着実に減っていると感じている。</p> <p>(会長)</p> <p>委員から質問があれば。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を利用する時に、使用する側からすると、お金がどれぐらいかかるかという問題が常にある。家賃を払うにしてもその初期投資分を行政などが補助すると促進される。10 年とか 15 年のローンにできるなど。公民館のような利用について空き家を使って行う場合も、費用の問題がある。もちろん空き家がある場所の地域をどうするか商店街も含め、大きな計画がないとなかなか空き家は利用されにくい。また、公民館などの建て替えを検討する際にコミュニティの人が簡単に寄れる場所として空き家を使っていく。困っているが、こういう場所に空き家があるのでと再利用していくことを行政が率先して進めると面白い。また、観光客に対して空き家は、情報を取得したり発信したりする場所として使えないか。今までの考え方の方向を変えてやっていただけるとよい。商工会議所でもインキュベーション施設にオフィスを借りに来ている人も増えている。 <p>空き家を活用してコミュニティの場所、民間の仕事の場所、そして観</p>

光客の場所そういったものが点在すると面白い。

(会長)

今現状で 500 の空き家があり危険空き家も 76 ということで相当な数で、ゼロにしていくということが目標になる。そのための計画、取組みが必要になってくる。危険空き家については苦情に対応するというところで、家主と話をして補助金を使って解体してもらおうという方向で成果が出ている。使える空き家は、行政が空き家バンクを開設しているだけでは、登録 20 件に対して空き家は 500 件あり、なかなか進んでいない。一つのポイントは家主がどこに困っているのかを把握して、その困りごとを解決してあげることが必要である。荷物が残っているなど。家主だけの力ではどうしようもないから放置されているので、公助共助でその空き家活用をどうしていくかという見通しである。その町をより元気にしていくという方向で空き家をどう活用するのか。地域の皆さんとその地域の将来をこう考える中で、その空き家を活用していく取組みが必要。

商店街の場合は 1 件 1 件丁寧に支援していくしかない。商工会でも、支援いただいているのは、新しくビジネスやろうという方、若い方を、的確に支援していく取組みが必要で、産業の育成と合体して空き家対策をしていかないといけない。個別の施策の中でぜひ書き込みをしていただきたい。

町の課題、まちづくりの課題についてはこんな感じでいくということで、次は都市将来像について、修正はこんな感じで大丈夫か。

- ・キャッチフレーズは、3、4 次総合計画で、自然、元気が必ずついており、そろそろ変えてみたらどうか。

私の案は、海が語り、町が語る、人が語る蒲郡。

蒲郡は海が大切であり、海を見ながら自分でいろいろな考え方をしたり、精神の自由を感じたり、どういったものを前面に打ち出してとなる。そういったものを生かすまちづくりに考え直したらいかか。

防災・減災を進めながら、海を生かす、まちが語るということで、防災・減災というシビルミニマムと蒲郡での生活の質を豊かにする施策も必要である。蒲郡はいいところ、生活の質が高まる、幸せということで、情報化などが進んでくるが、人は人との生活でしか得られない喜びがある。

人口 7 万 7 千人、観光で 600 万人が来て、60 万人が泊っている。600 万人が 1 日住んでおり、住んでいる生活、訪ねる生活の場となっている。

将来像に基本的なことを示し、この 10 年間市の施策に、生活の豊かさをもっていく視点を持っていたらどうか。

- ・つながりや世代間の交流のところに、外国人住民との交流を入れていただくとうい。

- ・P. 14、15 に外国人への支援を追加いただいたが、P. 15 (6) 地域社会において外国人住民との後に、日本語教室を一步出ると、日本人と外国人住民の交流がとても少ない。外国人住民と交流の場を広く持つなど、共生する場をと加えていただきたい。

- ・P. 17 の将来都市像の○の 4 つ目、繋がり合うのところで、みんなが輝き、きずなを深め合い、その繋がりや世代間の交流に、世代間だけでなく、外国人住民との交流も入れていただけるとよい。

- ・15 ページ (6)、外国新人市民は増加しており、地域社会において、

	<p>外国人住民と共生するための環境を整備するとともに日本語の習慣や生活、雇用の支援を行う必要があると入れていただくとありがたい。日本語教室をちょっと一歩出てみると、本当に日本人の方と、外国人の交流場がとても少ない気がするので、外国人住民と、交流の場を広く持つなど共生するための環境を整備する、交流の場を広く持つなど共生するためのと加えていただけるとありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に外国人が、ここ行ったら、こんな触れ合いができる場所を空き家など活用して設けると、彼らも行きやすくなる。先進国で移民を受け入れないのは日本だけで、人口が減って行く中である程度の人が入ってくる。蒲郡はインバウンドという形で1日の生活者として外人は相当来ているが、市民の中で国際化が進んでない。交流の場が増えていけば、自身も外に対して開かれた国際人になっていく気がする。 ・公共施設の再配置、マネジメントの話が出てきているが、その中にぜひ民活を入れていただきたい。民間施設の活用というものを入れていかないと、空き家対策に繋がっていかない部分もある。また、公共のサービスというのが、生活に密着して展開する可能性があるため、公共施設のマネジメント的な考え方とリンクするように総合計画の中に入れていただけると助かる。 ・将来都市像についてはたくさんコメントがあり、議会のコメントもあるので、慎重に考える必要がある。P. 17にSDGsの推進について示されているが、いったいSDGsをどのように計画の中に入れていくのか、そこに落としこまれる時にぜひ男女共同参画の視点を入れてほしい。女性の活躍、マイノリティの施策、どのように施策に落とし込んでいくのか、よく考えていただきたい。議会の方でもロゴマークの使用だけでは困るというようなご意見が入っていた。そこをよく考えていただきたい。 <p>(会長) 時間の都合もあり、個別の計画の議論を進めて、将来像、目標などをブラッシュアップしていきたい。</p>
	<p>(会長) 議題2 基本計画骨子案について事務局より説明を。 (事務局説明) ※資料4を説明</p> <p>(健康推進課) ※資料説明 (市民病院) (長寿課) (福祉課) (保険年金課) (子育て支援課)</p> <p>(会長) 現状と課題で具体的なことが出ており、皆さまの観点から追加のご意見などをいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の支援について、福祉関係の事業所の方々から職員不足というのがすごく深刻化していて、慢性化してきているという話である。総

	<p>合計画に示す分かれ目は、社会の課題にしないと解決できないのかどうかということである。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 先ほどの医療では看護師の確保・育成ということが書いている。これから高齢者もどんどん増えていくと、介護職の確保が、社会課題になってくる可能性は高い。そういったところに対する支援だとか、環境整備については、ここに書く必要があるのではないか。 • もう一つは、年金の受給が遅れているという話をすると、生涯現役、働くという方々への支援策も社会として取り組んでいく必要があるのではないかとということで、以上の2点を提案します。 • AEDを使ったことがある方はなかなか少ない。主人は職業上 AED の講習を受けているが、私は受けたことがなく、受けようと思ってもなかなか重い腰は上がらない。PTA、小中学校でも1年に1回、AED講習を設けるのもよい。子育て支援については、質の高い教育を推進中と示されているが、今でも十分に保育士の先生たちにやってもらっていると感じている。質の高い教育を受けられるのはうれしいが、現場の先生の負担が大きくなるか心配である。コロナ禍で外部からのお話や劇団とか、消防車見学とかが全くできない状態なので、警察官による交通訓練、消防車見学とかを年長さんだけやらせてあげるとか、少しずつ取り組みを復活させていただけると嬉しい。 • 高齢者の方とか障がい者の方が増えてくるとどうしても民生委員に負担がかかってくる。民生委員の数も国で決められており、増やすことができない。総代さんとか、地区の常会長さんに情報が伝わるようにする。災害時に助けてあげたくても、手伝ってあげたくても情報がなくて行えない。支援をしていただいた人、いただきたい人は、自分たちの情報が外に出せるような形が必要である。隣近所のつき合いが非常に少ないが、どういう方がどこに住んでいるかということが情報として出ていない。もう少し具体的に地区で、もしものときには助け合うようなシステムを作っていただきたい。 • 医療について、言葉の壁のため、医療機関に十分にかかれぬ外国人の方がいるので、通訳を増やす必要がある。そこに加えていただけるとありがたい。介護職の確保ということは、外国人の方の中に、特に女性で介護職をやってみたいという方は大勢いる。やはり言葉が十分ではなくて、勉強しなければならないが、外国人の方も、受け入れていただけるような機関が広がっていくとありがたい。外国人の子どもが保育園に入るときに、出す書類が大変で、何とかしてくれないかという話も聞く。子育て支援課には通訳の方が1人いるが、もう少し言葉のサポートがいる。 • 地域の医療や高齢者の介護、健康づくりとかで、多職種連携が必要であると P. 2 に示されている。ぜひ、Society5.0 の活用を考えていただきたい。いろんな学会でも、経団連の PR ビデオとか見ると、日本の医師が、カンボジアの子供の手術をリモートで行うということを目指して、2030 年に実現しようとしている。蒲郡の高度な医療を受けられる可能性、10 年後にはあってもいい。情報共有をするには無料のアプリなどの利用が可能であり、カルテの共有、高齢者でお困りの方の情報共有するツールは、もうすでに出てきている。病院で外国人がかか
--	---

る時の言葉の問題で、医療にかかれぬという指摘があったが、翻訳ツールはわずか5千円程度のもので十分対応できるような質問が可能である。例えば山形大学の大学病院では、翻訳タブレットを常に携帯していて、外国籍の方で日本語が難しいという方にそのタブレットで聞き取りしている。ぜひそういうものを、市民病院で入れていただくなど、テクノロジーを活用していただけると、より豊かな、健康な、誰も取り残されないというようなことを実現できるのではないかなと思う。

- ・蒲郡商工会議所も保健センターといろいろな提携をしている。健康づくりについて、健康経営優良法人認定が3年前始まった。全国515の商工会議所の中で、初年度に蒲郡と三島がとった。我々は癒しとアンチエイジングを設定しており、蒲郡に来て若返ろう、健康になろうという企業から見てそういったことをやろうとしている。この健康づくりを観光客の成果を市民も巻き込んでいくような形にしていく必要がある。健康のプログラムは1人が使うお金は多くない。プログラムができれば市民も観光客も参加できると、企業の大きいところが参加するようであれば、企業の組合が千円ぐらい補助したらどうかと提案している。全国組織を作ろうということも提案している。データが欲しい会社に提供できるようになると新産業創出にもなる。そういった面ではやっぱり健康福祉に強い方を観光の方とコラボしてこう一緒にやっていくと良い。企業にとってみると今メンタルヘルスが大きな問題になっており、セラピーとして、海はすごく良い。蒲郡はそれができる町で、そういう場所をつくっていくことが必要である。観光旅館もいろんな特化する旅館が増えてくると思う。健康づくりのこういうことに関してはこの空き家の、ここ行くといろんなことができるようにするのもアイデアである。行政の中で司令塔作ってやっていくかというのがこれからの課題である。DX、2030年はあらゆるものがつながる状態になるが、高齢者だと使い勝手が悪く紙を残すとすると、これかれ10年間どうするのか。高齢者が使えないのでやめるのかデジタル化か、これからは若い人が社会を作るので、高齢者が勉強する必要がある。従来は心地良いがDXについても真剣に取り組む必要がある。
- ・児童の関係の虐待のことは書かれているが、高齢者の方、障がい者の方にもやはり虐待問題は、潜在しており、入れていただくとよい。
- ・小中学校で部活動というものが近年、なくなるというような話もある。活動の場はクラブチームなど自主的な活動の方に移行されていくということである。現状を見ると、一部、中学校の部活動は、自主参加的なところでやりたい人は、他のクラブチームだとか岡崎、市内で自主的に探してやっているような現状である。蒲郡の拠点になるような、クラブチームが活動しやすいような環境づくりが必要になってくると思う。
- ・障害のある人という言葉を一時的に使っていただきたい。障がい者と使う部分もあると思うが、できたら、障害のある人が自立して暮らすことができるようなとか直していただきたい。
- ・それぞれの子どもが未来を開いていますという記述は、大きな言葉になっているような気がする。未来に向かって成長しようとしています

	<p>とか、文言を変えたらどうか。施策②のところも、子どもの未来を拓く学習支援よりも具体的に、子どもたち一人一人の可能性を伸ばす学習支援の実施というような、書きぶりがよい。ここは生活自立支援の中であるが、子どもたちのと出てくると、全体の子どものイメージしてしまうと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者支援のところのボランティア活動を行う人材の固定化、停滞や休止する場合で団体もあるため、福祉教育を推進し、福祉や地域活動担う人材の育成が必要とある。公的にもサポートする体制の必要性も書いていただけたらと思う。 ・ボランティアプラン、いわゆる長期の計画で人材育成していくのか、これが障がい者の枠だけではなくて全体的にいる部分がある。助け合いだとか、互助とか共助というのをこれから重要視していくのであれば、カリキュラム、プログラムを作っていく必要があり、プランか計画なのかを、それぞれ作っていただくとありがたい。
	<p>(会長) では第2章について簡単に説明いただいて、可能な範囲で意見交換を行う。</p> <p>(農林水産課) ※資料の説明 (企業立地推進課) (商工観光課) (観光商工課) (ボートレース事業部) (企画政策課)</p> <p>(会長) 2章については、直接関係ある委員が次回までにまとめて、事務局に伝えていただきたい。 または、関係する委員に事務局からヒアリングいただきたい。</p>
高野会長	<p>(会長) 続きまして、議題の3 その他について事務局より説明をお願いします。</p> <p>次回の開催についてご連絡いたします。</p>
事務局	<p>(事務局説明) 次回の開催は10月20日(火)午後1時30分から午後3時30分まで、会場は本日と同じ303会議室を予定しております。</p>
高野会長	<p>他にないようでしたら、以上で本日の審議会を終了いたします。 長時間にわたりありがとうございました。</p>